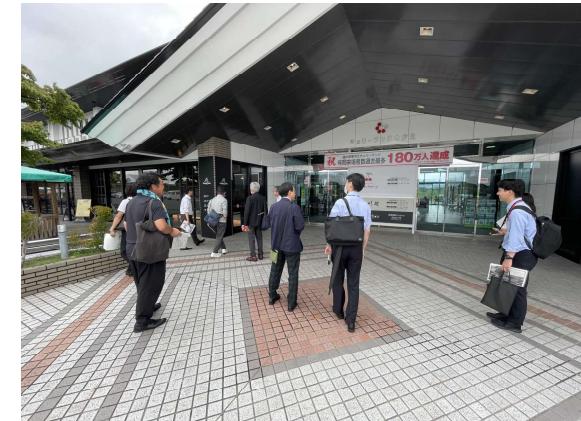


■日時：令和7年9月5日（金） ■参加者：委員5名

①チェリーランド（山形県寒河江市）

名称	「チェリーランド」・道の駅寒河江・寒河江川河川敷公園・さくらんぼ会館・CLAAPIN SAGAE・トルコ館・臨川亭
所在地	山形県寒河江市大字八鍬字川原
設置者	寒河江市
主な施設	<p>道の駅（産直、カフェ、レストラン等） 河川敷公園（テニスコート、ゲートボール場、芋煮広場等） 子育て支援施設（屋内型児童遊戯施設、屋外遊戯エリア等）※2ページ目に記載 多機能型休憩スポット （休憩スペース・トイレ、電動モビリティ充電スポット、コインシャワー等）他</p>
再整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 平成4年にオープン、平成5年に「道の駅」として登録。オープンから25年以上が経過し、令和2年2月に「寒河江市チェリーランド再整備計画」を策定。 再整備のコンセプト <ul style="list-style-type: none"> ①「さくらんぼ」をはじめとする地場産品の新たなPR活動や情報発信の拠点づくり ②「道の駅」としての機能強化 ③子どもからお年寄りまで多世代が利用できる施設整備 ④観光客や通行客の滞在時間拡大とインバウンドを推進 再整備区域を「交流拡大エリア」「アクティビティエリア」「健康増進エリア」の3つのエリアに区分し、令和3年度より「アクティビティエリア」から整備に着手。 <p>【交流拡大エリア】 市内外からの来場者が利活用し情報交換することにより、市内への交流人口の還流と情報発信を推進するエリア</p> <p>【アクティビティエリア】 さくらんぼをはじめとする、市内で栽培している果樹等を見て触れて食べる体験やアクティビティを楽しむことができるエリア</p> <p>【健康増進エリア】 清流寒河江川と月山・葉山を眺望しながら、グランドゴルフやテニスなどのスポーツや芋煮会など多目的な利用が可能な健康増進のためのエリア</p>

※出典：「寒河江市チェリーランド再整備計画（令和2年2月）」



道の駅寒河江 入口前



ギャザリングスポット前



河川敷公園（芋煮広場）

先進事例視察報告

令和7年9月18日
第3回策定委員会

資料1

② CLAAPIN SAGAE (山形県寒河江市)

名称	さくらんぼこどもキャンパス「CLAAPIN SAGAE」
所在地	山形県寒河江市大字八鍬字川原919-6
設置者	寒河江市
主な施設	屋内型児童遊戯施設、屋外遊戯エリア（じゃぶじゃぶ池、ぼうけんのおか等） キャンプエリア（オートキャンプ場、グランピング場、RVパーク）
概要・コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・チェリーランド「アクティビティエリア」の再整備において整備された施設 ・3つのゾーンからなる子どものための遊び場 <ul style="list-style-type: none"> 【屋内型児童遊戯施設】 中央にシンボリックな大型ネット遊具がそびえたつ「創作」「音楽」「運動」「外国語」などを体験できる7つの“せかい” 【屋外遊戯エリア】 月山や葉山を模した屋外広場 【キャンプエリア】 手軽にアウトドアを楽しめるエリア（宿泊可） ・合言葉は「アソビ」と「マナビ」 <ol style="list-style-type: none"> クリエイティブのチカラ 運動のチカラ コミュニケーションのチカラ 3つのチカラを柱とし、グローバルな未来を担う子どもたちの「基礎能力」と「非認知能力」の育成を目指す <p>※出典：さくらんぼこどもキャンパス「CLAAPINSAGAE」ホームページ</p>

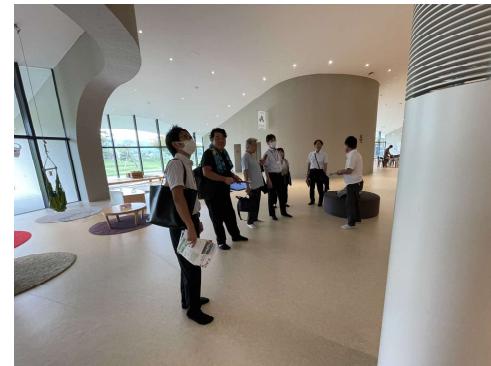
“CLAPPIN” の由来
 Creativity (創造力)
 Learning (マナビ)
 Athletic ability (運動能力)
 Activity (アクティビティ)
 Play (アソビ)
 Inclusive (包み込む、包括して)
 Non-cognitive ability (非認知能力)



RVパーク



グランピング場・オートキャンプ場



屋内型児童遊戯施設内



屋内型児童遊戯施設 正面



屋内型児童遊戯施設内（大型ネット遊具）



屋内型児童遊戯施設内（つながるせかい）

③シェルターインクルーシブプレイス コバル（山形県山形市）

名 称	山形市南部児童遊戯施設「シェルターインクルーシブプレイス コバル」
所在地	山形県山形市大字片谷地580-1
設置者	山形市
主な施設	屋内型児童遊戯施設
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・コバルが掲げる3つの柱 <ul style="list-style-type: none"> 【生きる力】好奇心や感性を大事にし、自ら考える力を育てます 【インクルーシブ】その人らしさを尊重し、ともに遊び、学ぶ環境をつくります 【地域共生】山形の自然と文化に触れながら、地域みんなで交流の場を築きます ・コンセプト <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然と遊びが生まれ、想像力が培われる場 2. 「やってみよう！」の気持ちを応援する場 3. 五感を大切にした、感性を育む場 4. 未知の知と出会い、冒険心を養う場 5. 多様性を認め合い、誰もが仲間になれる場 <p style="text-align: center;">※出典：「シェルターインクルーシブプレイス コバル」パンフレット</p>
説明内容	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブの根幹は「目の前の人を笑顔にする。それを永遠に続けていく」こと。 ・施設内は自然をイメージしており、遊具をあまり多く入れていない。 ・建物は、自然と一緒にになるような設計で、施設内は曲線を多く取り入れている。子どもの視点を意識した設計で、低い視点から外を眺めると、建物や車が見えずに山の稜線がきれいに見える。 ・施設の外には、車椅子のまま乗れるブランコなどのインクルーシブ遊具を設置。 ・利用場所の年齢制限は設けていない。例えば3歳の子でもいろいろな3歳の子がいる。 ・月間利用者数は、今年の8月は約28,000人で、市外は約10,500人。市内：市外の割合は3：2くらいだが、土日や長期休みは市外からの利用者の方が多い日もある。 ・年間イベント数は約200。子育て支援センター関係が約100件、地域の個人・団体・企業によるワークショップが約40件。子育て相談の件数は約320件。 ・イベントは利益にはならないが、純粋に子どものために実施している。地域の人にここでイベントを実施することに価値があると感じてもらうことで、地域で子どもを育てることを実感してもらっている。 ・95%は親子連れであり、親にとって子どもにとってもいい時間が過ごせることを大事にしている。



施設外観



施設内（たいいくかん）



施設内（1階から2階につながるスロープ）

シン・十文字拠点基本構想策定にあたり、将来的な利用者の中心となる中学生や高校生の率直で柔軟な視点やアイデアを拾い上げ、基本構想の検討資料として活用するため、全3回のワークショップを開催

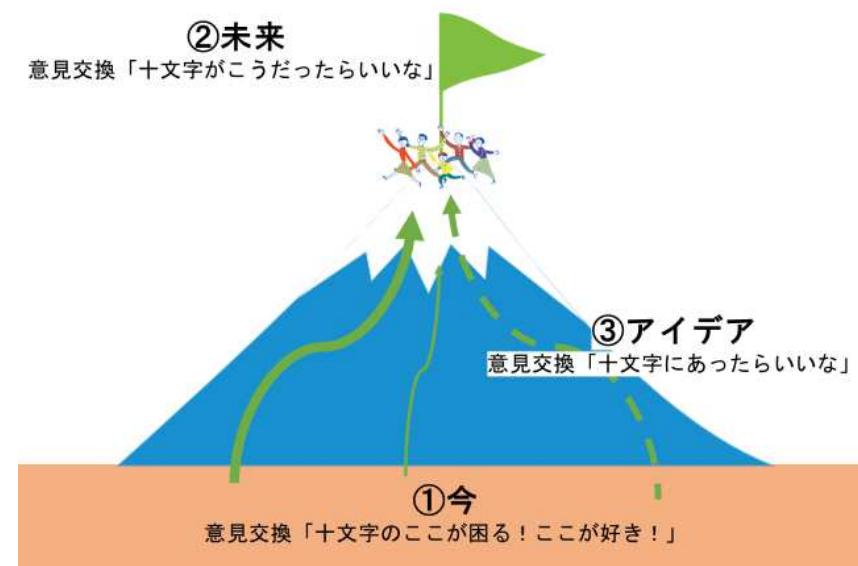
タイトル	『クロスロード～未来のシン・十文字を想像せよ～』
開催日時	第1回 令和7年7月29日（火）15:00～17:00 第2回 令和7年8月17日（日）13:30～15:00 第3回 令和7年8月31日（日）13:30～15:00
場所	十文字地区交流センター研修室
参加者	中学生：6名 高校生：8名 計14名 (十文字中学校6名、横手高校4名、増田高校2名、湯沢高校2名)
ファシリテーター	秋田ファシリテーション事務所 平元 美沙緒 氏



ワークショップタイトルロゴ

【各回の内容】

- 第1回 フィールドワーク（対象区域を歩いてみよう）
 - ・道の駅十文字 橋渡駅長
 - ・横手市まちづくり推進部十文字地域課 小國課長
 意見交換：テーマ「十文字のここが困る！ここが好き！」
- 第2回 意見交換：テーマ「十文字がこうだったらいいな」
- 第3回 意見交換：テーマ「十文字にあったらいいな」



ワークショップのロードマップ ※ファシリテーター作成スライドより

中高生を対象としたワークショップ実施報告

【ワークショップの様子】



A・B・Cの3グループに分かれ、各回のテーマに沿ってグループによる意見交換を実施

【各グループにおける主な意見】

テーマ グループ	第1回テーマ 「十文字のここが困る！ ここが好き！」	第2回テーマ 「十文字がこうだったらいいな」	第3回テーマ 「十文字にあったらいいな」
A	<p><u>「十文字のここが困る！」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントが少ない、イベントが夏に限られているので他の季節に魅力あるイベントをもっと増やせないか ・植田・睦合地域にコンビニが少ない、地域差が大きい ・横断歩道を渡してもらえない（自動車が止まらない） ・道に草が生えすぎている（草刈りが行き届いていない） ・中学生・高校生は歩くしかない（地域にバスなどの公共交通の移動手段がない） <p><u>「十文字のここが好き！」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・美味しいラーメン屋が多いのが強みでいつも賑わっている ・季節の食べ物、名物が多い ・こうした美味しいメシ（食）があることで、道の駅やスーパー・モールラッキーが地域に密着している ・閉校した小学校4校のグラウンドと体育館をもっとうまく使えないと良い 	<p><u>「革新的な」十文字</u></p> <p>十文字は古くさくて流行りのものがない。僕たちは十文字で見たことがない景色や体験でドキドキワクワクしたい。そのためには現状の十文字を打破するような大きな一步が必要。十文字の長所を残しつつ、他の地域にはない新たな武器を作りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・釣り堀、ディズニーランド、カラオケ、映画館など様々な遊ぶ場所が欲しい。 ・電動スクーターなどの移動手段や、岩手や宮城とつながる電車が欲しい。 ・（オンラインで簡単に注文ができる）フードデリバリー・サービスがあると良い。 	<p><u>「革新的な」十文字に「あったらいいな」</u></p> <p><遊園地></p> <ul style="list-style-type: none"> ・十文字の個性を活かす（ラーメン・雪を活かした遊園地） ・雪まつり（雪像・雪合戦、雪がない地域からの来客） ・リアルマリオカートで遊ぶことができる施設 <p><学校で遊ぶ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プール（高齢者も含めどの年代の人も利用できる） ・学校を使って何でもできる施設（音楽室→カラオケ、家庭科室→料理教室、教室→デパート（アウトレット）） ・広めのアクティブ（運動）施設（1日で回り切れないようにして何度もリピートしたくなるようにする） ・学校を貸し切ってユーチューバーなどに貸し出す、教室を使ったお化け屋敷 ・カードゲーム、ボードゲームができる

中高生を対象としたワークショップ実施報告

令和7年9月18日
第3回策定委員会

資料2

A・B・Cの3グループに分かれ、各回のテーマに沿ってグループによる意見交換を実施

【各グループにおける主な意見】

テーマ グループ	第1回テーマ 「十文字のここが困る！ ここが好き！」	第2回テーマ 「十文字がこうだったらいいな」	第3回テーマ 「十文字にあったらいいな」
B	<p>「十文字のここが困る！」</p> <ul style="list-style-type: none">・猩々まつりなど楽しいが夏しかない、せっかく雪が降るので冬のイベントがあると良い・駅前がシャッター街となっていてさみしい・電車バスがすごく少ない、交通の便が悪い・歩道が歩きやすく整備されていない、管理されていない・空き家や空き地が多く危険な場所もある・公園が使えるように整備されていない、きちんと管理されてないので子供達が遊べる場所として機能していない・娯楽施設が少ないので若者が遊ぶ場所を増やしたい・ラーメン屋が多い、一方でラーメン屋しかない <p>「十文字のここが好き！」</p> <ul style="list-style-type: none">・店舗が集中していて買い物に困らない・人があたたかく治安が良い・自然が多く田舎特有の良さがある	<p>「いきいきした」十文字</p> <p>地元に住んでいる人や十文字に来る人が、みんないきいきとしている状態、まちもひともそうした活力がある状態でありたい。</p> <p>また、夢中になるものがあるから十文字に住みたい、住み続けたいと思う。</p> <p>そして、わくわくしたりおもしろいところがあるから人が来てくれるのではないか、そういう場所があれば良い。</p> <ul style="list-style-type: none">・買い物をしたり、遊んだり、気軽に運動したり、食べ歩きをするなど、娯楽がある場所であれば良い。・交通機関を充実したい。・外国人と話す機会が欲しい、イベントが欲しい。	<p>「いきいきした」十文字に 「あったらいいな」</p> <p><十文字の地域性を活かしたイベント></p> <ul style="list-style-type: none">・雪まつり・ラーメン祭・食べ物祭り・フリーマーケット・運動ができるフェス・イベント・農業体験 <p><施設></p> <ul style="list-style-type: none">・カラオケ・温泉・プール・室内遊園地(アスレチック・キッズスペース) <p><Ao-naのような勉強ができる場所></p> <ul style="list-style-type: none">・(大曲の花火などイベント用に)旧小学校を再利用した宿泊施設 <p><交通></p> <ul style="list-style-type: none">・十文字を周回するバス・自由に使える自転車

A・B・Cの3グループに分かれ、各回のテーマに沿ってグループによる意見交換を実施

【各グループにおける主な意見】

テーマ グループ	第1回テーマ 「十文字のここが困る！ ここが好き！」	第2回テーマ 「十文字がこうだったらいいな」	第3回テーマ 「十文字にあったらいいな」
C	<p><u>「十文字のここが困る！」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶ場所・娯楽の場所・勉強ができる場所が少ない、Ao-naのような場所が十文字にも欲しい ・夜が暗い ・電車の本数が少ないので不便 <p><u>「十文字のここが好き！」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラーメン屋が多い ・さくらんぼ種飛ばし大会などの特産品を活かしたイベントがある 	<p><u>「夢中になる」十文字</u></p> <p>夢中というのは依存。今も楽しく、これからもまた来たいと思える場所にしたい。勉強も遊びもプラス思考でみんなが夢中になって楽しく過ごすことができるまちであると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊園地・ゲームセンター・カラオケ・気軽に友達と運動ができる場所など、遊べる娯楽施設が欲しい。 ・まつりや、東京などの他地域から招いたイベントが充実しているとよい。 ・ファミリーレストランや現状で十文字にはないコンビニエンスストア（チェーン）などの店舗が欲しい。 ・十文字をめぐる循環バスが欲しい。 	<p><u>「夢中になる」十文字に 「あったらいいな」</u></p> <p><運動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア・インドアの運動ができる場所 ・RVパークなどの宿泊・交流ができるアウトドアスポット ・お金を使わいで体を使って遊ぶことができる ・テニスコートを増やしたい ・悪天候でも遊べるショッピングモール・超巨大娯楽施設（カラオケ・ジム・マッサージ・ゲームセンター） <p><食べ物></p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に行けるチェーン店やファミリーレストランを増やす ・イベント（名物を広めるイベント、ラーメンエキスポ） <p><便利></p> <ul style="list-style-type: none"> ・照明設備を多くして明るくする ・遠方の地域から高齢者も来ることができる循環バス

中高生を対象としたワークショップ実施報告

令和7年9月18日
第3回策定委員会

資料2

各グループから出された意見をテーマごとに集約。

第1回テーマ
「十文字のここが困る！
ここが好き！」

第2回テーマ
「十文字がこうだったらいいな」

第3回テーマ
「十文字にあつたらいいな」

課題・良いところ

- ・イベントが少ない
- ・交通手段がない
- ・歩きやさくない
(歩道が未整備、草が生えている、暗い)
- ・遊ぶ場所が少ない

- ・買い物に困らない
(地域に密着した店舗)
- ・食べ物・名産品がある
(特にラーメン)

将来像・ありたい姿

- ・ドキドキワクワクしたい
- ・まちもひともいきいきとして活力がある
- ・夢中になれるから、住みたい、住み続けたい、楽しい、また来たいと思える
- ・十文字の長所を残しつつ、他の地域にはない新たな武器を作りたい
- ・遊べる・娯楽がある場所が欲しい
- ・イベントの充実
- ・交通機関の充実

手段・手法

【考え方・アイデア】

- ・十文字の地域性・個性を活かす
- ・旧小学校の利用

【具体的な施設・手段】

- ・運動ができる場所（屋内・屋外）
(プール、アスレチック、テニスコート)
- ・イベント
(雪まつり、ラーメンエキスポ)
- ・勉強ができる場所
- ・生涯学習活動ができる場所（料理教室）
- ・循環バス（十文字地域内）
- ・ショッピングモール・娯楽施設・遊園地
(カラオケ、ジム、アスレチック、カート、ゲームセンター、お化け屋敷 etc)
- ・宿泊ができる場所
(学校再利用、アウトドアスポット)

コンセプト

子育て世代を中心に多世代が集まる憩いの場を核とした賑わい拠点



地域住民の生活基盤となる機能を核に据え、両立可能な機能により
地域住民と市外・県外からの来訪者が交わる場を形成する

機能（案）	地域住民向け (日常利用)	市外・県外向け (広域利用)	両立可能性
交流・環境機能	◎	◎	高い
スポーツ・健康増進機能	◎	△	地域住民中心
子育て機能	◎	○	高い
産業振興機能	○	◎	外部誘客も重視
学習機能	◎	△	地域住民中心
防災機能	◎	○	地域住民中心 ※広域防災拠点（道の駅十文字）
交通機能	◎	◎	高い

主要機能

基盤機能

対象エリアのターゲットと必要な機能の整理

令和7年9月18日
第3回策定委員会

資料3

主要機能：地域住民中心

スポーツ・健康増進機能	概要	地域住民の健康寿命の延伸や、世代を超えた交流を促進する
	日常利用 広域利用	地域住民の日常的な運動や健康づくりの場
	ターゲット	地域住民
	施設例	屋内・屋外運動施設、ジョギング・散歩コース

学習機能	概要	地域住民の学びや子どもから高齢者までの多世代交流を促進する
	日常利用 広域利用	日常の学び（学習や調べ物）、読書の場
	ターゲット	地域住民（学生、子育て世代、高齢者）
	施設例	図書館、図書スペース、ワークスペース

基盤機能

防災機能	概要	地域住民の安全・安心を守るために基盤であり、有事の際には命を守る役割を果たす
	平常時 非常時	日常時：他の機能の役割を果たす場 非常時：避難所や救援活動の広域防災拠点
	ターゲット	地域住民
	施設例	避難所、備蓄倉庫、防災公園、駐車場、電源供給設備

交通機能	概要	地域住民の利便性を高めるとともに、来訪者をスムーズに受け入れるための基盤となる
	日常利用 広域利用	日常：地域住民がエリアを利用するための交通基盤 広域：市外・県外からの来訪者や道路利用者を含めた交通基盤
	ターゲット	地域住民、市外・県外からの来訪者
	施設例	駐車場、駐輪場、RVパーク（車中泊）、循環バス発着所

主要機能：両立可能性が高い

交流・環境機能	概要	地域住民が気軽に利用し、憩いや交流を促進するとともに、外部からの観光客等を受け入れることで、にぎわいを創出する
	日常利用 広域利用	日常：住民の散歩や交流の場として活用 広域：イベントやマルシェ開催により広域から集客
	ターゲット	地域住民、市外・県外からの来訪者
	施設例	公園（BBQ・キャンプ）、イベントスペース、マルシェ・朝市、ドッグラン

子育て機能	概要	子育て世代を支援し、安心して暮らせる環境を提供する。地域住民の日常的な利用を中心としながらも、周辺地域からの来訪者も受け入れることで、子育て世代同士のネットワークづくりにつなげる
	日常利用 広域利用	日常：親子の交流スペース、子育て相談 広域：子育て支援イベントや交流活動
	ターゲット	地域住民（子育て世代、未就学児～小中学生） 市外・県外からの来訪者
	施設例	屋内・屋外遊戯施設、公園、児童センター

主要機能：外部誘客重視

産業振興機能	概要	地域の特産品や地元産業を発信・振興する。道の駅十文字との連携により相乗効果を生み出し、観光客等の市外からの来訪者を呼び込み、地域の産業と観光を一体的に活性化する
	日常利用 広域利用	日常：日常的な住民の消費活動を支える場 広域：マルシェや体験型イベントで広域的に集客する
	ターゲット	地域住民、市外・県外からの来訪者
	施設例	飲食スペース、カフェ、農産品・お土産品等販売 キッチンカースペース